



Cisco UCS Manager アカウントの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [ポッド, 1 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager のアカウント, 4 ページ](#)
- [選択対象サーバの管理, 10 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager アカウントの Cisco UCS Central への登録, 13 ページ](#)
- [組織, 16 ページ](#)
- [ロケール \(Locales\) , 17 ページ](#)
- [タイムゾーン, 18 ページ](#)
- [ポリシーの複製, 19 ページ](#)
- [プール、ポリシー、その他のオブジェクトの削除, 19 ページ](#)

ポッド

ポッドは、物理コンポーネントおよび仮想コンポーネントの論理的なグループです。これには、コンピューティング用の Cisco UCS Manager アカウント、ネットワーク アカウント、またはクラウドアカウントなどの 1 つ以上の物理アカウントまたは仮想アカウントが含まれます。各ポッドは、データセンターやユーザにサービスを提供するために連携するネットワーク、コンピューティング、ストレージ、およびアプリケーションコンポーネントのモジュールです。ポッドは、同じ構成を何回でも繰り返すことができ、そのコンポーネントによってデータセンターのモジュール性、拡張性、管理性が最大限高められます。

ポッドを作成する際には、それで何を表すかを考慮します。たとえば、次を表すポッドを 1 つ作成できます。

- FlexPod、Vblock、または VSPEX などの単一のコンバージドインフラストラクチャスタック
- 特定の顧客またはテナントに割り当てられたリソースのグループ

- IP アドレスの特定の範囲内のリソース

Cisco UCS Central が含まれるシステムの場合、各 Cisco UCS ドメイン またはドメイングループに対応するポッドを作成することをお勧めします。

必要な場合は、ポッドをサイトにグループ化することができます。ただし、1つのポッドは1つのサイトのみに属することができます。

Cisco UCS Director の [統合基盤 (Converged)] タブにポッドとそれらのコンポーネントの詳細情報を表示できます。ポッドの作成方法については、『[Cisco UCS Director Administration Guide](#)』を参照してください。

Pod の追加

ステップ 1 メニューバーで [管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] の順に選択します。

ステップ 2 [POD] タブをクリックします。

ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。

ステップ 4 [PODの追加 (Add Pod)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[名前 (Name)] フィールド	Pod の記述名です。
[サイト (Site)] ドロップダウンリスト	Podを追加するサイトを選択します。環境にサイトがない場合は、このステップを省略できます。

[名前 (Name)]	説明
[タイプ (Type)] ドロップダウン リスト	<p>追加するポッドのタイプを選択します。タイプは次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [FlexPod] • [VersaStack] • [汎用 (Generic)] • [ExpressPod ミディアム (ExpressPod Medium)] • [VSPEX] • [ExpressPod スモール (ExpressPod Small)] • [Vblock] <p>汎用タイプ以外の Pod には、特定の物理コンポーネントおよび仮想コンポーネントにのみ対応しています。汎用ポッドには特定のポッドライセンスは必要ありません。また、汎用ポッドには、任意のタイプの物理コンポーネントまたは仮想コンポーネントを追加できます。Pod の実行に必要な個々のデバイス ライセンスを含む、バンドルされた Pod ライセンス (FlexPod、Vblock、VSPEX) の詳細については、『Cisco UCS Director Installation and Upgrade Guides』 を参照してください。</p> <p>(注) Cisco UCS Director では、VersaStack および汎用ポッドのみが IBM アカウントでサポートされます。</p>
[説明 (Description)] フィールド	(任意) Pod の説明です。
[住所 (Address)] フィールド	Pod の物理ロケーションです。たとえば、このフィールドには Pod の市区町村、またはその他の内部的な識別子を入力します。
[PODを非表示 (Hide Pod)] チェックボックス	<p>統合チェックビューにポッドを表示したくない場合に、このチェックボックスをオンにして、ポッドを非表示にします。Pod からアカウントの追加または削除は引き続き実行できます。</p> <p>たとえば、このチェックボックスを使用して、物理要素や仮想要素の存在しないポッドが統合ビューに表示されないようにすることができます。</p>

ステップ 5 [追加 (Add)] をクリックします。

次の作業

Pod にアカウントを 1 つ以上追加します。

Cisco UCS Manager のアカウント

各 Cisco UCS Manager アカウントは、Cisco UCS Director で管理する単一の Cisco UCS ドメインを表します。

Cisco UCS Central が含まれない環境では、Cisco UCS Manager アカウントをポッド内に作成します。

Cisco UCS Central が含まれる環境では、Cisco UCS Central アカウントをマルチドメインマネージャの下に作成する必要があります。その Cisco UCS Central に登録されたすべての Cisco UCS ドメインと、それに関連する Cisco UCS Manager アカウントが、アカウントの作成時に Cisco UCS Director に取り込まれます。必要な場合は、これらの 1 つ以上の Cisco UCS Manager アカウントを Cisco UCS Central アカウントからポッドに割り当てることができます。Cisco UCS Manager アカウントを Cisco UCS Central アカウントに登録することもできます。

Cisco UCS Manager アカウントの追加

はじめる前に

Cisco UCS Manager アカウントが属するポッドを追加します。

-
- ステップ 1 メニューバーで、[管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] の順に選択します。
 - ステップ 2 [物理アカウント (Physical Accounts)] タブをクリックします。
 - ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ 4 [アカウントの追加 (Add Account)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a) [ポッド (Pod)] ドロップダウンリストから、このアカウントが属しているポッドを選択します。
 - b) [カテゴリタイプ (Category Type)] ドロップダウンリストから、[コンピューティング (Computing)] を選択します。
 - c) [アカウントタイプ (Account Type)] ドロップダウンリストから、[UCSM] を選択します。
 - d) [送信 (Submit)] をクリックします。
 - ステップ 5 [アカウントの追加 (Add Account)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[認証タイプ (Authentication Type)] ドロップダウン リスト	<p>アカウントに使用する認証タイプを選択します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ローカルで認証済み (Locally Authenticated)] : ローカルで認証されたユーザ アカウントとは、ファブリック インターコネクトを介して直接認証されたユーザ アカウントのことであり、管理者権限または AAA (認証、認可、アカウントティング) 権限を持っていれば誰でも有効/無効にすることができます。 • [リモートで認証済み (Remotely Authenticated)] : リモートで認証されたユーザ アカウントとは、LDAP、RADIUS、TACACS+ のいずれかを介して認証されたユーザ アカウントのことです。
[サーバ管理 (Server Management)] ドロップダウン リスト	<p>アカウントのサーバをどのように管理するか選択します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [すべてのサーバを管理 (All Servers)] : すべてのサーバが管理されます。このオプションがデフォルトです。このオプションを選択すると、管理の状態ですべてのサーバが追加されます。 • [選択したサーバのみ管理 (Selected Servers)] : 選択したサーバのみが管理されます。必要に応じて管理サーバリストからサーバの追加および削除ができます。このオプションを選択すると、未管理の状態ですべてのサーバが追加されます。
[アカウント名 (Account Name)] フィールド	アカウントに割り当ててる一意の名前です。
[サーバのアドレス (Server Address)] フィールド	Cisco UCS Manager の IP アドレスです。クラスタ設定では仮想 IP アドレスになります。
[クレデンシャル ポリシーの使用 (Use Credential Policy)] チェックボックス	手動で情報を入力する代わりに、このアカウントのクレデンシャル ポリシーを使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
[クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] ドロップダウンリスト	<p>[クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy)] チェック ボックスをオンにした場合は、このドロップダウンリストから使用するクレデンシャル ポリシーを選択します。</p> <p>このフィールドが表示されるのは、クレデンシャルポリシーの使用を選択した場合のみです。</p>

[名前 (Name)]	説明
[ユーザ ID (User ID)] フィールド	<p>アカウントが Cisco UCS Manager のアクセスに使用するユーザ名です。このユーザ名は Cisco UCS Manager の有効なアカウントである必要があります。</p> <p>このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。</p>
[パスワード (Password)] フィールド	<p>ユーザ名に関連付けられたパスワードです。</p> <p>このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。</p>
[UCS 認証ドメイン (UCS Authentication Domain)] フィールド	<p>リモートで認証するアカウントの認証ドメインです。</p> <p>このフィールドは、認証されたアカウントをローカルで使っている場合、または、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合は表示されません。</p>
[通信タイプ (Transport Type)] ドロップダウンリスト	<p>アカウントで使用する通信タイプを選択します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • http • https <p>このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。</p>
[ポート (Port)] フィールド	<p>Cisco UCS Manager のアクセスに使用するポートです。</p> <p>このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。</p>
[説明 (Description)] フィールド	(オプション) アカウントの説明です。
[連絡先の電子メール (Contact Email)] フィールド	管理者またはアカウント責任者の連絡先に使用できる電子メールアドレスです。
[ロケーション (Location)] フィールド	アカウントのロケーションです。
[サービスプロバイダー (Service Provider)] フィールド	(オプション) 該当する場合は、アカウントに関連付けられるサービス プロバイダー名です。

ステップ 6 [追加 (Add)] をクリックします。

Cisco UCS Director によって、Cisco UCS Manager への接続がテストされます。テストが成功した場合は Cisco UCS Manager アカウントを追加して、Cisco UCS Manager にあるアカウントに関連するすべてのインフラストラクチャ要素（シャーシ、サーバ、ファブリック インターコネクト、サービス プロファイル、プールなど）を検出します。この検出処理およびインベントリ収集サイクルの完了には、およそ 5 分かかります。

[管理 (Administration)] > [システム (System)] > [System Tasks (システム タスク)] タブで設定されるポーリング間隔は、インベントリ収集の頻度を指定します。

物理アカウントへの接続のテスト

ポッドをアカウントに追加した後は、いつでも接続をテストできます。

-
- ステップ 1 メニューバーで、[管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] の順に選択します。
 - ステップ 2 テストするアカウントタイプに対応するタブをクリックします。
たとえば、[物理アカウント (Physical Accounts)] タブまたは [マルチドメイン マネージャ (Multi-Domain Managers)] タブをクリックします。
 - ステップ 3 テーブルで、接続のテスト対象となるアカウントの行をクリックします。
 - ステップ 4 [テスト接続 (Test Connection)] をクリックします。
 - ステップ 5 接続テストが完了したら、[閉じる (Close)] をクリックします。
-

次の作業

接続が失敗した場合は、ユーザ名やパスワードを含め、アカウントの構成を検証します。ユーザ名とパスワードが正しい場合は、ネットワーク接続に問題があるかどうかを確認します。

Cisco UCS Manager アカウントの検出の確認

-
- ステップ 1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ 2 確認対象となる Cisco UCS Manager アカウントを含むポッドを左側の列で選択します。
(注) 左列のツリー構造は、[サイト (Sites)]、[未割り当てのポッド (Unassigned Pods)]、[マルチドメイン マネージャ (Multi-Domain Managers)] のノードを一覧表示します。[サイト (Sites)] ノードを展開すると、サイト ノードのすべての Pod が表示されます。[未割り当てのポッド (Unassigned Pods)] ノードを展開すると、どのサイトにも割り当てられていないすべてのポッドが表示されます。[マルチドメイン マネージャ (Multi-Domain Managers)] リストを展開すると、Cisco UCS Director に追加したすべてのマルチドメイン マネージャ アカウント タイプが表示されます。

- ステップ 3** [コンピューティングアカウント (Compute Accounts)] タブをクリックします。
- ステップ 4** 確認するアカウントの行をテーブルでクリックします。
- ステップ 5** [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
Cisco UCS Director が検出されたアカウントのコンポーネントに関する情報を表示するタブ セットを表示します。
- ステップ 6** [戻る (Back)] をクリックして [コンピューティングアカウント (Compute Accounts)] タブに戻ります。
-

Cisco UCS ドメイン内のデバイスのトポロジと接続の表示

- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左の列で、トポロジを表示する Cisco UCS Manager アカウントが含まれるポッドを選択します。
- ステップ 3** [コンピューティングアカウント (Compute Accounts)] タブをクリックします。
- ステップ 4** テーブルで、アカウントの行をクリックします。
- ステップ 5** [接続の表示 (View Connectivity)] をクリックします。
[トポロジビュー - UCS デバイス接続 (Topology View - UCS Device Connectivity)] ダイアログボックスが表示され、Cisco UCS ドメイン内のデバイスのトポロジと接続が表示されます。
- ステップ 6** 必要な場合は、次の表示オプションを変更することができます。
- [表示モード (View Mode)] ドロップダウンリスト：デバイスの間隔と位置を調整します。トポロジビューのカスタマイズに使用できるオプションは、このモードで決まります。次の表示モードを選択できます。
 - [階層 (Hierarchical)]
 - [同心 (Concentric)]
 - [ラウンドロビン (Circular)]
 - [強制の実行 (Force Directed)]
 - [リンクラベルの表示 (Show Link Labels)] チェックボックス：デバイス間のリンクのラベルの表示/非表示を切り替えます。一部の表示モードでは、これらのラベルは表示されません。
 - [項目のスペース設定を許可 (Allow Item Spacing)] チェックボックス：階層表示モードでのデバイス間の距離を大きくします。
 - [距離 (Distance)] コントロール：同心表示モードでのデバイス間の距離を調整します。
 - [半径 (Radius)] コントロール：円形表示モードで、円の半径を変更することでデバイス間の距離を調整します。

- [厳密性 (Rigidity)] コントロール：強制的実行表示モードでの厳密性を調整します。
- [強制距離 (Force Distance)] コントロール：強制的実行表示モードでのデバイス間の距離を調整します。

ステップ 7 [閉じる (Close)] をクリックして、[コンピューティングアカウント (Compute Accounts)] タブに戻ります。

Cisco UCS Manager アカウントの設定のエクスポート

Cisco UCS Director では、*Ucs-Timestamp-configuration.zip* という名前のファイルは、ダウンロード先としてブラウザで設定されている場所にエクスポートされます。

-
- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左ペインで、設定をエクスポートする Cisco UCS Manager アカウントが含まれているポッドを選択します。
- ステップ 3** 右側のペインで [コンピューティング アカウント (Compute Accounts)] タブをクリックします。
- ステップ 4** テーブルで、アカウントの行をクリックします。
- ステップ 5** [設定のエクスポート (Export Configuration)] をクリックします。
- ステップ 6** [UCS設定のエクスポート (Export UCS Configuration)] ダイアログボックスで、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 7** 設定のエクスポートが完了したら、[閉じる (Close)] をクリックします。
-

Cisco UCS Manager アカウントの設定のインポート

Cisco UCS Director の Cisco UCS Manager アカウントから、または Cisco UCS Manager からエクスポートされた設定をインポートすることができます。



(注) Cisco UCS Manager アカウントに設定をインポートすると、そのアカウント内の既存の設定が上書きされます。

- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左の列で、設定をインポートする Cisco UCS Manager アカウントが含まれているポッドを選択します。
- ステップ 3** [コンピューティングアカウント (Compute Accounts)] タブをクリックします。
- ステップ 4** テーブルで、設定をインポートするアカウントの行をクリックします。
- ステップ 5** [設定のインポート (Import Configuration)] をクリックします。
- ステップ 6** [UCS設定のインポート (Import UCS Configuration)] ウィザードの [設定のアップロード (Upload Configuration)] 画面で、次の手順を実行します。
- [参照 (Browse)] をクリックし、インストールする設定ファイルに移動します。
 - [アップロード (Upload)] をクリックします。
 - ファイルのアップロードが完了したら、[OK] をクリックします。
 - [Next] をクリックします。
- ステップ 7** [UCS設定のインポート (Import UCS Configuration)] ウィザードの [設定の選択 (Select Configuration)] 画面で、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
- | オプション | 説明 |
|---|------------------------|
| [すべての設定のインポート (Import All Configuration)] | ファイル内のすべての設定をインポートします。 |
| [インポートのカスタマイズ (Customize Import)] | 選択した設定のみをインポートします。 |
- ステップ 8** [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 9** 設定のインポートが完了したら、[閉じる (Close)] をクリックします。

選択対象サーバの管理

Cisco UCS Manager アカウントをポッドに追加するときに、Cisco UCS Director でそのアカウントのサーバを管理する方法を選択できます。次のいずれかを選択できます。

[すべてのサーバ (All Servers)]

すべてのサーバが Cisco UCS Director によって管理されます。このオプションがデフォルトです。

[選択済みのサーバ (Selected Servers)]

選択したサーバのみが Cisco UCS Director によって管理されます。必要に応じて管理対象サーバのリストにサーバを追加および削除できます。



(注) サーバライセンス使用率には、管理状態、トランジション状態、使用禁止状態のサーバが含まれます。アンマネージドサーバは含まれません。

選択対象サーバの管理のガイドラインと制限

選択対象サーバの管理を設定する場合は、次のガイドラインと制限にご注意ください。

サーバ管理オプションの変更

既存の Cisco UCS Manager アカウントを [すべてのサーバ (All Servers)] から [選択済みのサーバ (Selected Servers)] に変更する場合は、Cisco UCS Director のすべてのサーバが管理対象外状態となります。最初に、サーバがトランジション状態となり、サーバレポートから削除されます。1 台以上のサーバを選択して手動で管理対象状態に移行しない場合は、Cisco UCS Director が管理対象外状態への移行を完了するまで、すべてのサーバが 48 時間トランジション状態となります。サーバがトランジション状態になっている間は、ライセンス使用中としてカウントされます。

既存の Cisco UCS Manager アカウントのサーバ管理設定を [選択済みのサーバ (Selected Servers)] から [すべてのサーバ (All Servers)] に変更した場合は、Cisco UCS Director のすべてのサーバが管理対象状態に移行されます。

サーバプール

Cisco UCS Director では、サーバプールのマネージドサーバのみが表示されますが、プールのサイズにはすべてのサーバが含まれます。たとえば、サーバプールに 2 台のサーバがあり、そのうち 1 台のサーバのみが Cisco UCS Director で管理されている場合、そのプールのすべてのサーバプールレポートとアクションには、1 台の (管理対象) サーバのみが表示されます。ただし、プールサイズは 2 台と表示されます。

[サービス プロファイル (Service Profiles)]

Cisco UCS Director では、アンマネージドサーバと関連付けられているサービス プロファイルは表示されません。サービス プロファイルは、サーバが Cisco UCS Director で管理されている場合にのみ表示されます。

Cisco UCS Manager を使用して Cisco UCS Director で管理されていないサーバを持つサーバプールと、サービス プロファイルを関連付けると、そのサービス プロファイルや Cisco UCS Director のサーバでそれ以上のタスクを実行できません。そのサーバやサービス プロファイルを管理するには、該当するオーケストレーション ワークフローにサーバ管理タスクを追加する必要があります。

管理対象サーバの選択

はじめる前に

Cisco UCS Director で管理するサーバを選択できるようにするには、Cisco UCS Manager アカウントの選択的なサーバ管理の設定を [選択したサーバ (Selected Servers)] として設定します。

-
- ステップ 1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ 2 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
 - ステップ 3 右側のペインで [UCS 検出済みサーバ (UCS Discovered Servers)] タブをクリックします。
 - ステップ 4 [UCS検出済みサーバ (UCS Discovered Servers)] タブをクリックします。
このタブには、Cisco UCS ドメイン内の Cisco UCS Manager によって検出されたすべてのサーバが表示されます。
 - ステップ 5 [サーバの管理 (Manage Servers)] をクリックします。
 - ステップ 6 [サーバの管理 (Manage Servers)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a) 管理対象にするサーバのチェックボックスをオンにします。
 - b) [送信 (Submit)] をクリックします。選択したサーバが Cisco UCS Director によって管理状態に移行されます。
-

サーバ管理の解除

[選択済みサーバ (Selected Servers)] の Cisco UCS Manager アカウントでサーバ管理オプションを設定した場合は、Cisco UCS Director で管理する必要がなくなったサーバを管理対象から外すことができます。

-
- ステップ 1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ 2 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
 - ステップ 3 右側のペインで [UCS 検出済みサーバ (UCS Discovered Servers)] タブをクリックします。
 - ステップ 4 [UCS検出済みサーバ (UCS Discovered Servers)] タブをクリックします。
このタブには、Cisco UCS ドメイン内の Cisco UCS Manager によって検出されたすべてのサーバが表示されます。
 - ステップ 5 [サーバのアンマネージ (Unmanage Servers)] をクリックします。
 - ステップ 6 [サーバのアンマネージ (Unmanage Servers)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a) 管理する必要がなくなったサーバのチェック ボックスをオフにします。

b) [送信 (Submit)] をクリックします。

Cisco UCS Director によって、選択したサーバがトランジション状態に移行され、サーバレポートから削除されます。サーバは遷移状態を 48 時間維持した後に、Cisco UCS Director によって管理対象外状態への移行が実行されます。サーバがトランジション状態になっている間は、ライセンス使用中としてカウントされます。

Cisco UCS Manager アカウントの Cisco UCS Central への登録

Cisco UCS Central アカウントを追加すると、Cisco UCS Director は、そのアカウントを使用して、すべての登録済み Cisco UCS ドメインを管理できます。Cisco UCS Director を使用して、Cisco UCS Manager アカウントを Cisco UCS Central アカウントに登録することもできます。

また、ポリシー、サービスプロファイル、およびサービスプロファイルテンプレートを次のいずれかとして指定することで、これらの作成と管理に Cisco UCS Central アカウントまたは Cisco UCS Manager アカウントのどちらを使用するかを選択することもできます。

- [ローカル (Local)] : ポリシー、サービスプロファイル、またはサービスプロファイルテンプレートは、Cisco UCS Manager アカウントを使用して作成および管理されます。
- [グローバル (Global)] : ポリシー、サービスプロファイル、またはサービスプロファイルテンプレートは、Cisco UCS Central アカウントを使用して作成および管理されます。

Cisco UCS Central の前提条件

Cisco UCS Manager アカウントを Cisco UCS Central アカウントに登録する前に、次の手順を実行します。

- Cisco UCS Director、Cisco UCS Manager、および Cisco UCS Central で NTP サーバと正しいタイムゾーンを設定し、それらが同期されていることを確認します。それらの 1 つ以上の時間と日付が同期されていない場合、Cisco UCS Central での登録に失敗することがあります。
- Cisco UCS Director で Cisco UCS Central アカウントのホスト名と IP アドレスを取得します。
- Cisco UCS Central を展開したときに設定した共有秘密を取得します。

Cisco UCS Manager アカウントの Cisco UCS Central への登録

はじめる前に

- 1 つ以上の Cisco UCS Central アカウントを追加します。

- 次の Cisco UCS Central の前提条件を実行します。

-
- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
- ステップ 3** [サマリー (Summary)] タブをクリックします。
- ステップ 4** [UCSセントラルに登録 (Register with UCS Central)] タブをクリックします。
- ステップ 5** [UCSセントラルに登録 (Register with UCS Central)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- [UCS セントラル ホスト名/IPアドレス (UCS Central Hostname/IP Address)] フィールドに、Cisco UCS Central アカウントのホスト名または IP アドレスを入力します。
(注) IP アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない、または DNS 管理がローカルに設定されている場合は、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録され、DNS 管理がグローバルに設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。
 - [共有秘密 (Shared Secret)] フィールドで、Cisco UCS Central アカウントの共有秘密 (またはパスワード) を入力します。
 - [送信 (Submit)] をクリックします。
-

Cisco UCS Central からの Cisco UCS Manager アカウントの登録解除

Cisco UCS Manager アカウントを Cisco UCS Central から登録解除すると、その Cisco UCS Manager アカウントは、グローバル ポリシーの更新を受けとらなくなります。

-
- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
- ステップ 3** [サマリー (Summary)] タブをクリックします。
- ステップ 4** ドロップダウンメニューボタンをクリックし、[UCSセントラルの登録を解除 (Unregister from UCS Central)] を選択します。
- ステップ 5** [UCSセントラルの登録を解除 (Unregister from UCS Central)] ダイアログボックスで、[送信 (Submit)] をクリックします。
-

ポリシー、サービス プロファイル、またはサービス プロファイル テンプレートのグローバル設定

Cisco UCS Manager アカウントを使用して、ポリシー、サービス プロファイル、またはサービス プロファイル テンプレートをグローバルとして設定します。

はじめる前に

Cisco UCS Manager アカウントを Cisco UCS Central アカウントに登録します。

-
- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ 2** 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
 - ステップ 3** 右ペインで、適切なタブをクリックし、ポリシー、サービス プロファイル、またはサービス プロファイル テンプレートが置かれている場所に移動します。
たとえば、次のいずれかを実行します。
 - サービスプロファイルの場合は、[サービスプロファイル (Service Profiles)] タブをクリックします。
 - vHBA テンプレートなどのサービス プロファイル テンプレートまたはポリシーの場合は、[組織 (Organizations)] タブをクリックし、[詳細の表示 (View Details)] をクリックして、目的のテンプレートまたはポリシーが含まれている組織をクリックします。
 - ステップ 4** グローバルにするポリシー、サービス プロファイル、またはサービス プロファイル テンプレートのテーブル内の行をクリックします。
 - ステップ 5** [グローバルの使用 (Use Global)] をクリックします。
サービス プロファイルまたはポリシーによっては、ドロップダウンメニュー ボタンをクリックし、メニューから [グローバルの使用 (Use Global)] を選択します。
 - ステップ 6** [グローバルの使用 (Use Global)] ダイアログボックスで、[送信 (Submit)] をクリックします。
-

ポリシー、サービス プロファイル、またはサービス プロファイル テンプレートのローカル設定

Cisco UCS Manager アカウントを使用して、ポリシー、サービス プロファイル、またはサービス プロファイル テンプレートをローカルとして設定します。

-
- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
- ステップ 3** 右ペインで、適切なタブをクリックし、ポリシー、サービス プロファイル、またはサービス プロファイル テンプレートが置かれている場所に移動します。
たとえば、次のいずれかを実行します。
- サービス プロファイルの場合は、[サービス プロファイル (Service Profiles)] タブをクリックします。
 - vHBA テンプレートなどのサービス プロファイル テンプレートまたはポリシーの場合は、[組織 (Organizations)] タブをクリックし、[詳細の表示 (View Details)] をクリックして、目的のテンプレートまたはポリシーが含まれている組織をクリックします。
- ステップ 4** ローカルにするポリシー、サービス プロファイル、またはサービス プロファイル テンプレートのテーブル内の行をクリックします。
- ステップ 5** [ローカルの使用 (Use Local)] をクリックします。
サービス プロファイルまたはポリシーによっては、ドロップダウン メニュー ボタンをクリックし、メニューから [ローカルの使用 (Use Local)] をクリックします。
- ステップ 6** [ローカルの使用 (Use Local)] ダイアログボックスで、[送信 (Submit)] をクリックします。
-

組織

マルチテナント環境の組織

マルチテナント機能を使用すると、Cisco UCS ドメインの大きな物理的インフラストラクチャを組織と呼ばれる論理的なエンティティに分割することができます。その結果、各組織に専用の物理インフラストラクチャを設けなくても各組織を論理的に分離できます。

マルチテナント環境では、関連する組織を通じて、各テナントに一意のリソースを割り当てられます。これらのリソースには、各種のポリシー、プール、および Quality of Service 定義などがあります。また、すべてのユーザにすべての組織へのアクセス権を付与する必要がない場合は、ロケールを実装して、組織ごとにユーザ権限やロールを割り当てたり、制限したりすることもできます。

マルチテナント環境をセットアップする場合、すべての組織は階層的になります。最上位の組織は常にルートです。ルートに作成したポリシーおよびプールはシステム全体にわたるもので、このシステムに含まれるすべての組織で使用できます。しかし、他の組織で作成されたポリシーやプールが使用できるのは、同じ階層でそれより上にある組織だけです。たとえば、あるシステムに Finance と HR という組織があり、これらは同じ階層に存在しないとします。この場合、Finance は HR 組織にあるポリシーは一切使用できず、また、HR は Finance 組織にあるポリシーには一切アクセスできません。しかし、Finance と HR は両方とも、ルート組織にあるポリシーやプールを使用できます。

マルチテナント環境に組織を作成する場合、各組織、または同じ階層のサブ組織に次のうち 1 つ以上をセットアップすることもできます。

- リソース プール
- ポリシー
- サービス プロファイル
- サービス プロファイル テンプレート

ルート組織は常にトップ レベルの組織です。

組織の作成

ルートとなる最上位レベルの組織を作成できます。このルートに作成したポリシーおよびプールはシステム全体にわたるもので、このシステムに含まれるすべての組織で使用できます。

-
- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ 2** 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
 - ステップ 3** 右側のペインで [組織 (Organizations)] タブをクリックします。
 - ステップ 4** [追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ 5** [組織の追加 (Add Organization)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。
 - [名前 (Name)] フィールドに、組織の名前を入力します。
 - [説明 (Description)] フィールドに、組織の説明を入力します。
 - [親組織 (Parent Organization)] ドロップダウンリストから、この組織を含める上位の組織を選択します。
-

ロケール (Locales)

各ロケールには、ユーザからのアクセスを許可する 1 つ以上の組織を定義します。アクセスは、このロケールで指定された組織の範囲内に制限されます。このルールのも 1 つの例外として、組織

が指定されていないロケールがあります。この場合、すべての組織内のシステムリソースに対して無制限のアクセスが可能になります。

Cisco UCS ドメインには、最大 48 のロケールを含めることができます。最初の 48 のロケールが許可された後も設定はされますが、障害が発生して、ロケールが無効になります。

組織は階層的に管理できます。トップレベルの組織に割り当てられたユーザは、自動的にその下にあるすべての組織にアクセスできます。たとえば、エンジニアリング組織が、ソフトウェアエンジニアリング組織とハードウェアエンジニアリング組織で構成されているとします。ソフトウェアエンジニアリング組織のみを含むロケールでは、その組織内のシステムリソースにのみアクセスできます。エンジニアリング組織を含むロケールでは、ソフトウェアエンジニアリング組織とハードウェアエンジニアリング組織の両方のリソースにアクセスできます。

ロケールの作成

-
- ステップ 1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ 2 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
 - ステップ 3 右ペインで、[ロケール (Locales)] タブをクリックします。
 - ステップ 4 [追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ 5 [ロケールの追加 (Add Locale)] ダイアログボックスに、ロケールの名前と説明を入力します。
 - ステップ 6 [組織 (Organizations)] フィールドで、[選択 (Select)] をクリックし、次の手順を実行します。
 - a) ロケールを追加する組織のチェックボックスをオンにします。
 - b) [選択 (Select)] をクリックします。
 - ステップ 7 [送信 (Submit)] をクリックします。
-

タイムゾーン

Cisco UCS では、正しい時刻を表示するために、ドメイン固有のタイムゾーンの設定と NTP サーバが必要です。タイムゾーンを設定しない場合は、時刻が正しく表示されないことがあります。

さらに、使用中の環境に Cisco UCS Central が含まれている場合は、Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central で NTP サーバと正しいタイムゾーンを設定し、それらが同期されるようにする必要があります。Cisco UCS ドメインと Cisco UCS Central の時刻と日付が同期されていないと、登録に失敗することがあります。

タイム ゾーンの追加

-
- ステップ1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ2 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
 - ステップ3 右ペインで、[タイムゾーン (Time Zone)] タブをクリックします。
 - ステップ4 [追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ5 [タイムゾーンの追加 (Add Time Zone)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a) [NTPサーバ名 (NTP Server Name)] ダイアログボックスで、このタイム ゾーンの NTP サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
 - b) [送信 (Submit)] をクリックします。
-

ポリシーの複製

ポリシーを複製して、元のポリシーと同じ設定のコピーを作成できます。

-
- ステップ1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ2 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
 - ステップ3 右ペインで、該当するタブをクリックし、ポリシーがある場所に移動します。
たとえば、ブート ポリシーを複製する場合は、[組織 (Organizations)] タブをクリックし、ポリシーを複製する組織をクリックして、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
 - ステップ4 複製するポリシーのタイプのタブをクリックします。
たとえば、ブートポリシーを複製する場合は、[ブートポリシー (BootPolicies)] タブをクリックします。
 - ステップ5 複製するポリシーを選択し、[複製 (Clone)] をクリックします。
 - ステップ6 必要に応じてポリシーの名前を変更したり、他のフィールドの値を変更します。
 - ステップ7 [送信 (Submit)] をクリックします。
-

プール、ポリシー、その他のオブジェクトの削除

プール、ポリシー、または VLAN などの他のオブジェクトを削除するために使用する方法は、すべてのオブジェクトで同じです。



(注) オブジェクトを削除する前に、それらがシステム内の他のオブジェクトによって使用または参照されていないことを確認してください。たとえば、ネットワークポリシーを削除する前に、サービス プロファイルがそのポリシーを参照していないことを確認します。

-
- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のペインで Pod を展開し、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。
- ステップ 3** 右側のペインで、適切なタブをクリックし、オブジェクトが置かれている場所に移動します。たとえば、VLAN を削除する場合は、[VLAN] タブをクリックします。
- ステップ 4** 削除するオブジェクトを選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。
- ステップ 5** [削除 (Delete)] をクリックします。
-